

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部3年 前川 佳奈

①学習成果

今回の派遣に期待していたことは2つあったが、結果として2つとも期待を越える成果を得ることができた。1つは朝鮮語の能力向上、もう1つは国際交流の機会であった。今回の派遣に応募した理由は、一昨年の冬ごろから韓国の歴史や文化に関心を持つようになったことと、昨年の夏に長期休暇を利用して、自費短期留学でオーストラリアを訪れた際に、国際交流の楽しさを知ったことであった。

1つ目の朝鮮語の能力向上に関しては、他の参加者がある程度の朝鮮語の素養がある中で、自分はほとんど触れたことがなかったので、あまり期待はしていなかった。せめて事前語学学習までにハングルだけは読めるようにしておき、事前語学学習では初級クラスだったが、語学堂での最初のクラス分けテストでレベル2に所属された。レベル2には、事前語学学習で中級に所属されていた参加者も多かったため、最初は周りの参加者とレベルが合わず、授業内容についていけなかった。しかし、ここでレベル2に配属されたことが、朝鮮語能力の向上に大きく役立ったと感じる。せっかく海を越えて語学を学習しに来ているので、自分の現状では少し追いつかないくらいのレベルで奮闘すると、機会を最大限に生かせると感じた。語学堂のレベル分けテストでは、問題の意味すら分からなくても勘で答えを埋めると上のクラスに行けるようなので、向上心のある人はとにかく解答欄を埋めていくと良いと思った。2つ目の国際交流に関しても、友達と言えるほど仲良くなれたのは韓国人2人、韓国以外の外国人6人ほどで、プログラムを終えた今でも英語と韓国語で連絡を取ることができているので、期待以上の成果が得られた。

また、大学のプログラムで行くことで、特別講義や聴講などの機会があったので、非常に貴重な機会が得られて良かったと感じる。韓国人の友達は聴講のクラスでできたので、自力で参加するより機会が増えて良かったと思う。

②海外での経験

自分は海外旅行には慣れていて、短期留学も2回目だったので、特に日本とあまり変わらない韓国では、特別印象的な経験はなかった。しかし、韓国は特に日本に親近感を持つ人が多いと感じたので、飲食店で店員さんと仲良くなってSNSアカウントを交換したり、観光ツアーのガイドさんと拙い日本語と拙い韓国語で交流したりすることができ、こちらの韓国語能力が低くても現地の人と交流しやすかったのは印象的だった。

③プログラム内容

先にも記述した通り、特別講義や聴講の機会が有り難かった。韓国人の英語能力の高さに刺激を受けたり、韓国で活動する教授から日韓関係の授業を受けたりと、この機会ですら得られない経験があった。

④進路への影響について

特になし。文学部専門科目の朝鮮語を履修するきっかけになった。